

## 公共用水域水質測定結果の概要

### 1 環境基準等達成状況

#### (1) 健康項目

人の健康の保護に関する環境基準が設定されている項目（カドミウム、全シアン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン等の 27 項目）については、「硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素」が忍川及び高田川で環境基準を超過したが、その他の項目については、いずれの地点においても環境基準を達成している。（表 1）

「硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素」の環境基準を超過した忍川及び高田川においては、これまでの調査から源流部及び湧水の硝酸性窒素濃度が高いことが判明しており、窒素負荷実態把握などに努めている。

当該地域は畜産業と畑作農業が盛んな地域であり、畜産農家への家畜排せつ物の適正管理に係る指導や畑作農家への環境にやさしい農業技術の普及について、生活排水対策を含め、引き続き関係機関と連携して対策を進めていく。

表 1 健康項目の環境基準超過状況（単位：mg/L）

物質名	河川名	地点名（市町村名）	年平均値	環境基準値
硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	忍川	富川地先（銚子市）	16	10 以下
	高田川	白石取水場（銚子市）	13	

#### (2) 生活環境項目

##### ア BOD（河川）又はCOD（湖沼及び海域）

環境基準が設定されている 85 水域の環境基準達成状況は、61 水域で達成しており、達成率は 71.8%で、前年度の 68.2%から 3.6 ポイント上昇した。

区分別では、河川で 80.0%（前年度 75.7%）、湖沼で 0%（同 0%）、海域で 45.5%（同 45.5%）となった。（表 3、図 1）

##### イ 全窒素・全りん

環境基準が設定されている 7 水域（湖沼 2 水域・海域 5 水域）の環境基準達成状況は、湖沼では全窒素及び全りんともに達成した水域はなかったが、海域では全窒素が 4 水域で、全りんは全ての水域で達成した。

##### ウ 全亜鉛・ノニルフェノール

環境基準が設定されている 66 水域（河川 56 水域・湖沼 4 水域・海域 6 水域）の環境基準達成状況は、湖沼及び海域では全亜鉛・ノニルフェノールともにすべての水域で達成し、河川では全亜鉛が 53 水域で、ノニルフェノールは全ての水域で達成した。

表3 生活環境項目（BOD・COD）の環境基準達成状況

区分	類型	基準値 (mg/L)	指定 水域数	達成 水域数	達成率 (%)
河川 (BOD)	A	2以下	24(24)	17(15)	70.8( 62.5)
	B	3以下	22(22)	18(17)	81.8( 77.3)
	C	5以下	14(14)	11(12)	78.6( 85.7)
	D	8以下	2( 2)	2( 2)	100 (100 )
	E	10以下	8( 8)	8( 7)	100 ( 87.5)
	河川計	—	70(70)	56(53)	80.0( 75.7)
湖沼 (COD)	A	3以下	3( 3)	0( 0)	0 ( 0 )
	B	5以下	1( 1)	0( 0)	0 ( 0 )
	湖沼計	—	4( 4)	0( 0)	0 ( 0 )
海域 (COD)	A	2以下	2( 2)	0( 0)	0 ( 0 )
	B	3以下	4( 4)	0( 0)	0 ( 0 )
	C	8以下	5( 5)	5( 5)	100 (100 )
	海域計	—	11(11)	5( 5)	45.5( 45.5)
合計		—	85(85)	61(58)	71.8( 68.2)

(注) 1 ( )内は前年度。

2 環境基準の評価

①基準点：測定値の75%値が環境基準以下の場合に適合しているものと評価する。

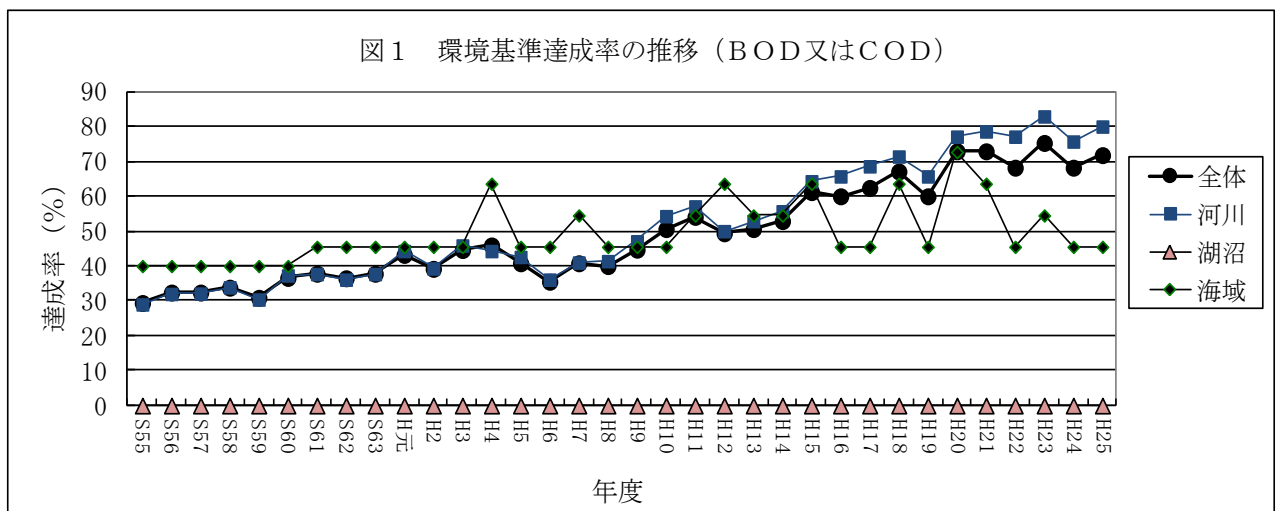
②水域：当該水域内の全ての基準点が環境基準以下の場合に適合しているものと評価する。

3 75%値：n個の日間平均値を値の小さいものから並べたとき、 $n \times 0.75$ 番目の数値をいう。

$n \times 0.75$ が整数でないときは、小数点以下を切り上げる。

(例) 年間11個の日間平均値がある場合

$11 \times 0.75 = 8.25 \dots$  値の小さいものから9番目の値



## 2 水質及び底質の現況

### (1) 水質調査

#### ア 河川

##### (ア) 江戸川

上流、中流、下流（1）、下流（2）の4水域9地点で調査を実施しており、平成25年度のBOD年平均值は、1.4～4.0mg/Lであった。

主要地点においては、年度により若干の変動があるもののここ数年悪化傾向にある。（図2-1）

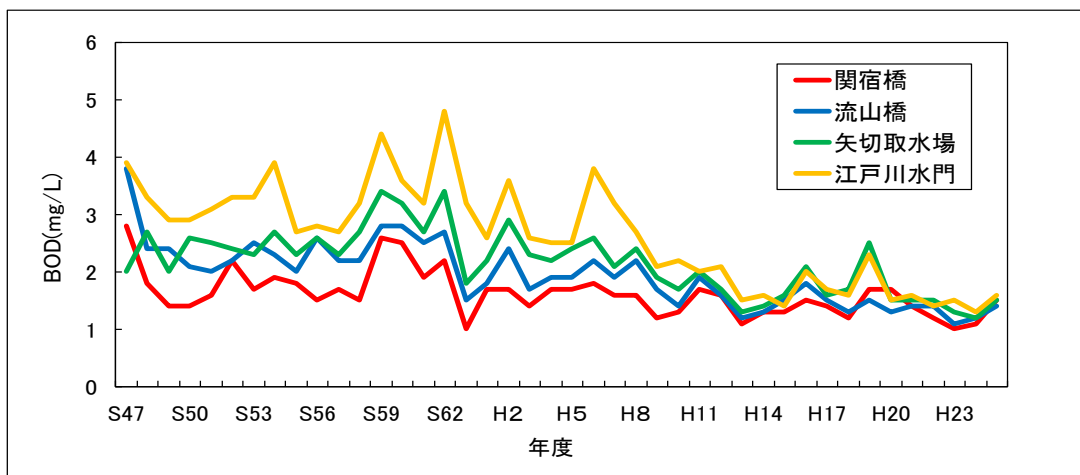


図2-1 江戸川の主要地点の水質経年変化（BOD年平均值）

##### (イ) 利根川

下流の1水域8地点で調査を実施している。平成25年度のBOD年平均值が、1.4～2.4mg/Lであった。

主要地点においては、ここ数年悪化傾向にある。（図2-2）

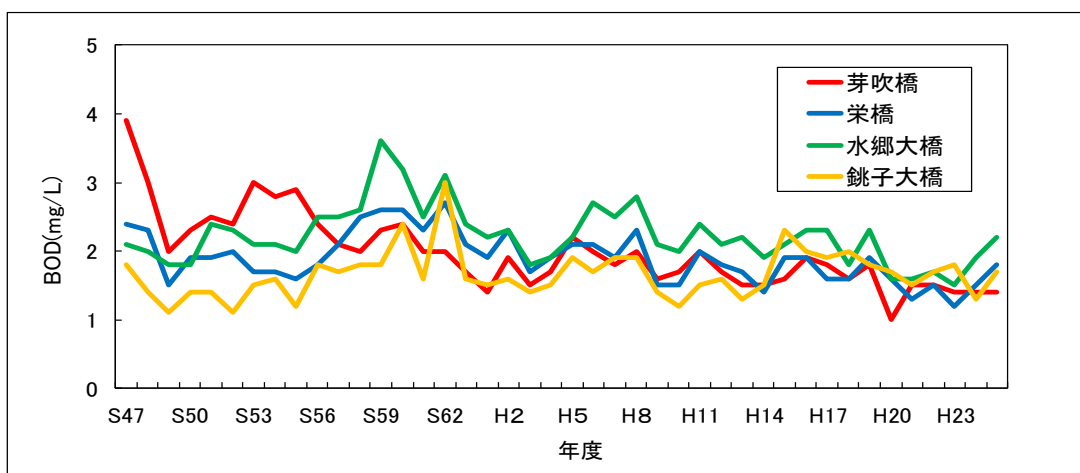


図2-2 利根川の主要地点の水質経年変化（BOD年平均值）

### (ウ) 県内主要河川

平成25年度の県内主要河川のBOD年平均値は、養老川が1.9mg/L、小櫃川が1.2mg/L、栗山川が2.1mg/L、黒部川が3.6mg/Lとなっており、黒部川において、ここ数年悪化傾向にある。(図2-3)

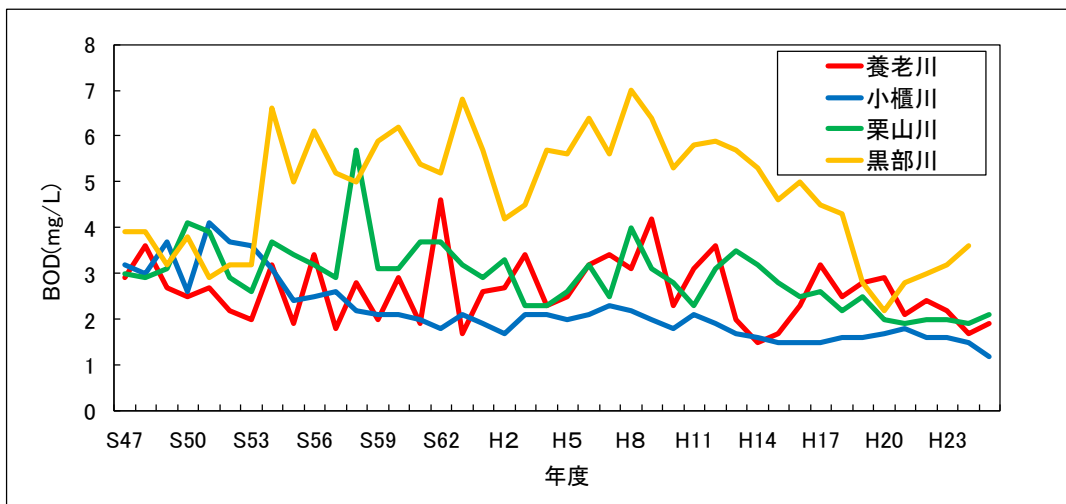


図2-3 県内主要河川の水質経年変化 (BOD年平均値)

### (エ) 主要都市河川

流域の人口密度が高い県北西部などの都市域を流れる河川のBOD年平均値は、平成10年頃までは改善傾向にあったが、以降横ばい傾向にある。

(図2-4)

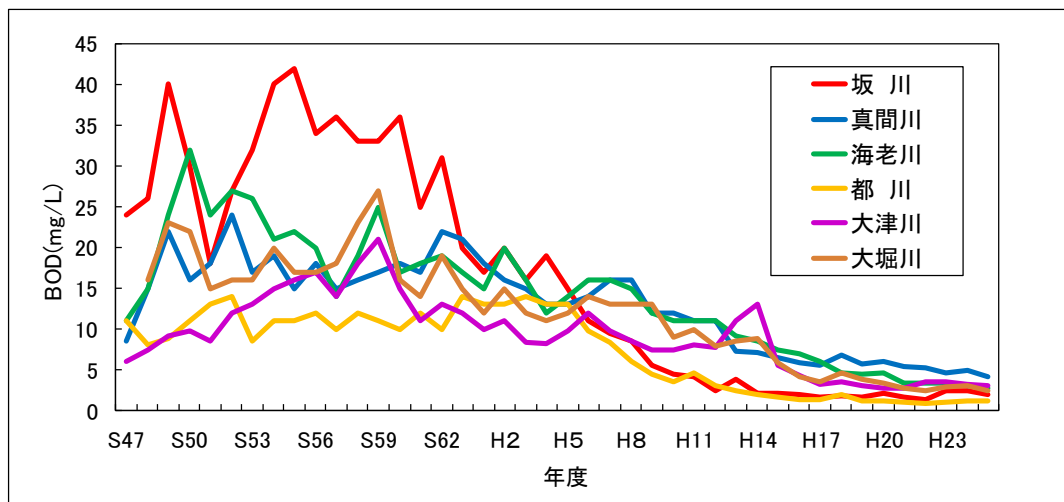


図2-4 県内主要都市河川の水質経年変化 (BOD年平均値)

### イ 湖沼

印旛沼、手賀沼、高滝ダム貯水池、亀山ダム貯水池の4水域、15地点で調査を実施している。手賀沼では過去20年以前と比較すると、良化しているが、印旛沼ではここ数年、悪化傾向にある。(図2-5)

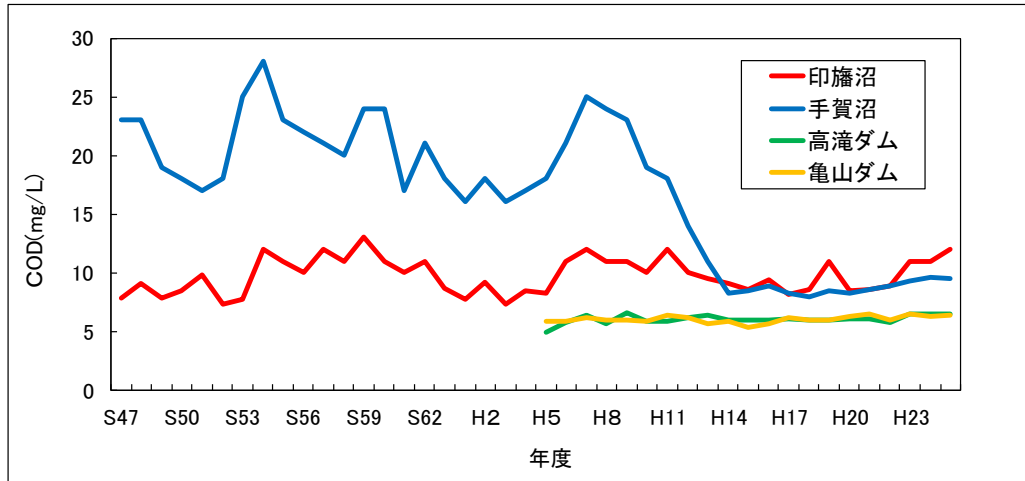


図 2-5 県内湖沼の水質経年変化 (COD 年平均値)

## ウ 海域

内湾水域、内房水域、南房総水域及び九十九里水域の計 42 地点で調査を行っている。気候状況等により、変動は見られるが、COD 年平均値はおおむね横ばい状況にある。(図 2-6～2-7)

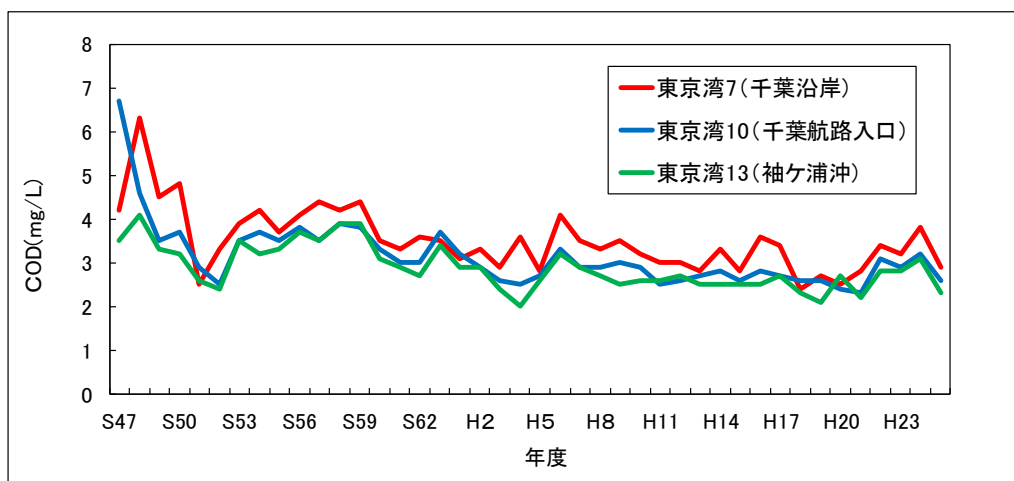


図 2-6 東京湾内湾の水質経年変化 (COD 年平均値)

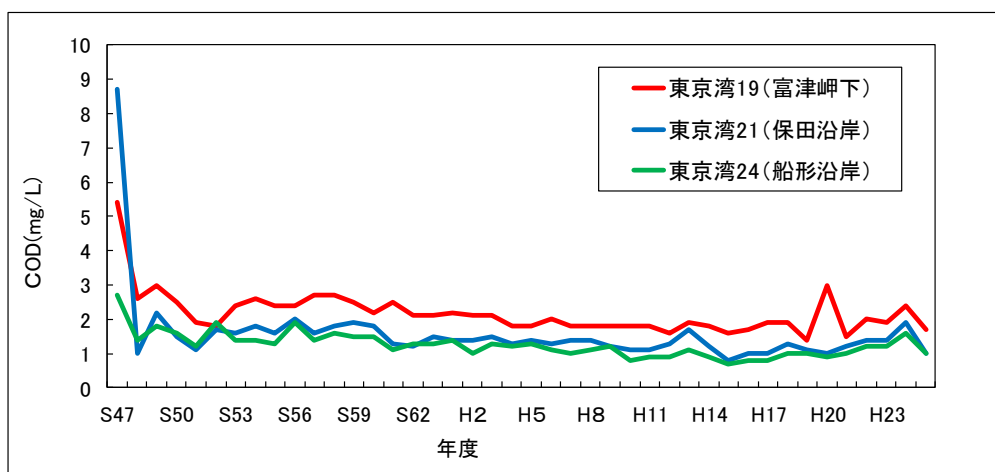


図 2-7 東京湾内房の水質経年変化 (COD 年平均値)